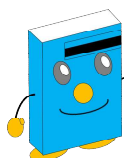


Q 学習評価とは？

A 学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。

「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。



（特支小中学学習指導要領解説総則編 第3編第2章第4節3(1)、
特支高学習指導要領解説総則編 第2編第2部第1章第4節3(1)）を基に作成

障害のある児童生徒に係る学習評価については、一人一人の児童生徒の障害の状態等に応じた指導と配慮及び評価を適切に行うことを前提としつつ、特に以下のような観点から改善することが必要である。

- ・ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科においても、文章による記述という考え方を維持しつつ、観点別の学習状況を踏まえた評価を取り入れることとする。

（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（H31）「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）

観点別学習状況の評価の観点

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に
学習に取り組む態度

学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒の学習評価についても変わりません。個々の児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、その評価を適切に行うことが必要です。

特別の教科 道徳、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動についても、学習指導要領で示したそれぞれの目標や特質に応じ、適切に評価します。

